

深谷市立榛沢小学校
学校だより

令和3年度 7月号

発行 令和3年6月25日



はんざわ

児童数 176名

教職員数 26名

学校教育目標
目指す児童像

ふるさとを愛し、自己の夢の実現に向けて努力する児童の育成
進んで勉強する子 思いやりのある子 体をきたえる子



聖火リレーと渋沢栄一翁

深谷市立榛沢小学校長 横田 茂男

前月号で紹介できませんでしたが、本校の開校記念日は6月1日です。開校は榛沢尋常小学校と改称された明治22年に遡り、今年度133年目を迎えています。ところで、それよりもさらに17年前の明治5年の学制発布により、榛沢6か村、本郷4か村、東児玉5か村の教場を後榛沢の東光寺と定め学校を設立しています。この東光寺から数えると150年目を迎えていることとなります。

コロナ禍で、子供たちはスポーツを楽しむ機会が多少なりとも奪われています。それでも、昨年度実施できなかった水泳は、感染防止に努めながら（プールサイドやプールの中でも2mの間隔を保つ、シャワーを浴びる直前まではマスクを着用するなどして）実施しています。

人生100年時代を笑顔で豊かに過ごすには、「心」と「体」を元気にする運動との付き合い方が大切です。水泳やジョギング、ウォーキング等の有酸素運動は、「幸せホルモン」と呼ばれるセロトニンなどの神経伝達物質が分泌されやすいとも言われています。

さて、一年延期されているオリンピック・パラリンピックの開催が近づいてきました。7月8日に本庄市深谷市内を聖火が通過します。資料を当たりますと聖火リレーのコンセプトに「支えあい認めあい、高めあう心でつなぐ聖火の光が新しい時代の日の出となり……」との文言があります。その「支え合い」「認め合い」「高め合い」（「合い」を漢字で表しています）は、渋沢栄一翁の精神「立志」と「忠恕」、「支え合う心」と意図するところは共通であると感じます。

子供たちには、課題を解決すること、チャレンジすること、努力すること、他者を尊重すること等について深く考え、自己実現へ向けて今後も前進して行って欲しいと願っています。聖火リレーのコンセプトから、そして「青天を衝け」からも、「立志」（高め合い）、「忠恕」（認め合い）、「支え合い」を学ぶ夏となります。

さらには、オリンピックパラリンピックを機に大会ビジョンである「多様性と調和」を尊重した共生社会が認識され、誰一人取り残さない社会づくりが進展することを願っています。

6月の行事から

リコーダー講習会 3年 14日



様々な大きさのリコーダーを音色と共に紹介いただき、子供たちからは驚きの声が聞こえてきました。「パプリカ」の演奏では、リズムに合わせて体を動かして楽しんでいました。

深谷学校花はなプラン 5年 11日



東西の昇降口付近と車が入り出る門の花壇が夏バージョンに装いを替えました。

ロードサポート 4年 18日



本校は、「彩の国ロードサポート事業」協力団体です。落合橋西側の花壇を整備しました。

町たんけん 2年 11日



グループごとに保護者に引率のご協力をいただきながら実施しました。JAでは、「味来」が最盛期には1日5000ケースが出荷されるとのお話をお聞きました。保護者のご協力に感謝申し上げます。